

動詞「洗い出す」の意味調査： 言葉の意味の核となるものは何か

23B01556 吉永龍司

はじめに

以前友人と話していたときに「洗い出す」という言葉を思い出せなかったことがあった。意味を調べたところ、自分の思っていたイメージと異なり、「列挙する」という意味合いはないとわかった。そこで他の人はどんなイメージを持っているか興味を持ったため、この言葉が実際にはどんな意味だと考えられているか調べて考察しようと考えた。ただし、「洗い出す」という言葉について本研究ではすべて比喩的な意味についてのみ考える。単語認知においては、先行情報が後続情報に影響を与える文脈効果という現象が存在するため(齋藤ら1997)、本実験では被験者自身に例文を挙げさせて、その後の質問で意味の想起を容易にすることを図っている。

リサーチクエスチョン

「洗い出す」という言葉は、辞書の説明通りでない意味も持つと認識されている。

方法

GoogleFromを使用し、23Bの東工大生を対象に以下の質問を行う。質問項目は、「洗い出す」を使った例文、「洗い出す」の言葉の意味(記述および選択肢)、「洗い出す」を普段使うときの意味(記述および選択肢)、「洗い出す」という動詞の意味に内在する連用修飾語(選択肢)とする。意味の選択肢は「明らかにする・調べる・見つける・探す・分類する・選別する・並べる・数え上げる・取り除く・あばき出す・推測する・想像する・検証する・把握する」の14語、連用修飾語の選択肢は「詳しく・細かく・深く・広く・余すところなく・大まかに・念入りに・丁寧に・徹底的に・再び・全て」の11語とし、選択肢は追加できるようにする。
また「洗い出す」という言葉の意味を辞書で調べる。

結果

30人の回答が得られた。表1のAの列を見ると、「洗い出す」の言葉の意味としては多い順に、探す、見つける、あばき出す、明らかにする、調べるが半数以上に選ばれた。この5つについてBの列を見ると、普段使うときの意味としては多い順に、明らかにする、見つけるとあばき出す(同数)、探す、調べるとなった。「外延的に表そうとする・探し出す・抜き出す・引き抜く」の4つの動詞が選択肢外から選ばれた。表2を見ると、徹底的に、余すところなく、すべて、が半数以上に選ばれた。

結論：「洗い出す」という言葉は、

「明らかにする」という意味で使われているが、

辞書の説明と似た言葉も言葉の意味に当てはまる。

動詞	A	B	AUB	A, B
探す	23	13	23	13
見つける	21	14	23	12
明らかにする	19	19	22	16
あばき出す	20	14	22	12
調べる	16	10	18	8
把握する	10	9	11	8
並べる	8	7	10	5
数え上げる	8	6	10	4
選別する	8	5	9	4
検証する	6	5	9	2
分類する	2	4	4	2
取り除く	3	2	4	1
推測する	3	2	4	1
想像する	0	3	3	0
外延的に表そうとする	1	1	1	1
探し出す	1	1	1	1
抜き出す	1	1	1	1
引き抜く	1	1	1	1

表1

AおよびBの質問について各動詞等を選択した人数

A:「洗い出す」という言葉の意味に当てはまるもの

B:「洗い出す」という言葉を普段使うときの意味に

当てはまるもの

AUB:AまたはBの少なくとも一方を選択した人数

A,B:AとBを両方選択した人数

連用修飾語	選択者数
徹底的に	23
余すところなく	20
全て	15
念入りに	10
詳しく	5
広く	5
丁寧に	5
細かく	4
大まかに	4
深く	2
再び	2

表2

「洗い出す」という言葉の意味に内在するものとして各連用修飾語を選択した人数

発行所	出版年	意味
学習研究社	2009	かくれていた事実を調べあげる。
三省堂	2015	くわしく調べて、はっきりさせる。
岩波書店	2019	隠れている事柄を調べて明らかにすること。
大修館書店	2021	詳しく調べて、隠されていた事実などを明らかにする。

表3

「洗い出す」という言葉の辞書における意味

考察

辞書に掲載されている意味については、表3のようにわかった。「隠れていた」「事実を」「詳しく」「調べて」「明らかにする」といった意味の言葉が共通して使われている。このうち、「隠れていた」は事実などの事柄の状態を表しているから、動作動詞であるものは「調べて」と「明らかにする」の2つであり、連用修飾語は「詳しく」である。

この結果と表1の上位の動詞を比較すると、「洗い出す」という言葉の辞書における意味のうち、「調べる」は「探す・見つける・明らかにする・あばき出す」より少なく5番目に選ばれているとわかる。よって、言葉の意味としても普段使うときの意味としても、より適した言葉があると認識されていると考えられる。また、「明らかにする」については、表1のAの列を見ると、言葉の意味としては「探す・見つける・あばき出す」に次いで数人差で4番目に多く、一方Bおよび[A,B]の列を見ると、普段使うときの意味としては最も多いことがわかる。よって、言葉の意味としては「探す」や「見つける」といった動詞も合っていると認識されているが、普段使うときの意味は辞書通り「明らかにする」という意味で使っていると最も認識されていると考えられる。表2を見ると、「詳しく」を選んだのは30人中5人であり、「徹底的に」「余すところなく」などに比べると多いとはいえない。

このような結果となった理由として、「探す・見つける。あばき出す」といった動詞を、「洗い出す」と言う言葉の意味として選んだ人に比べて普段使うときの意味として選んだ人の数が少ないことに注目したい。これは、意味は合っているがそのような意味では使っていないと考えている人が多いことを示している。この傾向は「調べる」や中位の動詞にも見られるが、「明らかにする」には見られない。また上位の動詞はある程度似通った意味を持っている。したがって、「洗い出す」という言葉の意味は似た意味の言葉でも当てはまると認識されているが、実際に使うときの意味は辞書における意味だと最も認識されていると考えられる。

齋藤ら(1997)によると「心的辞書は初期の言語経験を通じて形成され、その核が形成された後にも、何らかの言語環境の影響を受けつつ修正と調整を経ていると考えられる」という。これは心的辞書が辞書における説明と必ずしも一致していないことを裏付けている。

おわりに

「洗い出す」という言葉は、辞書の説明に近い言葉も意味が当てはまると認識されるが、辞書通りの「明らかにする」という意味で使われていることがわかった。他の言葉でも同じ特徴があるかは今後の課題である。

文献

松本裕治 影山太郎 永田昌明 齋藤洋典 徳永健伸『岩波講座 言語の科学3 単語と辞書』岩波書店、1997
『学研現代新国語辞典 改訂第四版』学習研究社、2009
『三省堂現代新国語辞典 第五版』三省堂、2015
『岩波 国語辞典 第8版』岩波書店、2019
『明鏡国語辞典 第三版』大修館書店、2021